

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 6 No 9

6 2 号

平成10年 9月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

耐性について

院 長

皆さん耐性という言葉をご存知ですか。医学でいうと細菌に対して抗生物質効がなくなること耐性と呼んでいます。しかし今回は、医学ではなくこども達の『耐性』ということについて考えてみたいと思います。

最近こども達の間で、暴力や自殺など「キレル」ことが問題になっています。事件でマスコミに上るようなものから、小さなことまで様々です。「キレル」ことの原因については様々なことが言われてきました。親の愛情や理解が足りないなど家庭の問題やストレスなどが、原因として挙げられています。果たして、それらは正しいのでしょうか。

少子化の時代となってこどもが少なくなり、むしろ親は愛情を以前より多く与えようとしています。確かにこどもに限らず大人の世界でも、ストレスは年々増加傾向を示していることも事実です。しかしストレスというのは、それ自体確固たるものではありません。ある人にとってストレスであっても、他の人ではストレスとはなりえない場合もあるのです。戦争や飢饉などの悲惨な惨状が大きなストレスになることは確かですが、こどもの自殺の割合が高いとは限りません。

では本当の原因は、どこにあるのでしょうか。もちろん原因ははっきりしていませんが、次のようなことも考えられているのです。それが耐性の欠如です。この場合の耐性とは、欲求不満に耐える力と定義されています。つまり欲求が満たされない状態でも、不適切な行動を起こさないことと考えてもいいでしょう。別名心のブレーキとか、心の免疫体などとも呼ばれているものです。耐性というものが低ければ、心にブレーキが効かず自分自身を抑制できないため問題を起こしてしまうわけです。

ではどうして耐性が欠如するようになったのでしょうか。先日福岡教育大学教授の横山正幸先生の講演を伺いました。耐性の欠如の原因として、いくつかの問題をあげていました。一つは教育の問題です。道徳は遺伝として伝え

られるものではなく、学習によって初めて獲得できるものです。しかし道徳が教育の中で軽視されてきたことが、その原因の一つと指摘しています。また我慢することはいけないこと、つまり“こどもの欲求不満はいけないこと”で

あるという考え方が、続いていたこともその一つです。また耐性というのは、生まれたときから少しずつ発達していくものなのです。その発達に、親の養育態度が大きく関係しているのです。単なる過保護ではなく、放任と過干渉が混在した過保護が耐性の発達を妨げると言われています。耐性の高い子と低い子（乗り切りの力のある子とない子）を比較すると、やはり親も同じ傾向を示していました。そしてもう一つの原因として指摘されたことは、『無遊病のこども達』ということです。夢遊病とは違い、遊びを知らないこども達という意味です。こどもは仲間と遊ぶことによって、集団の中で耐性を獲得していくのです。遊びの集団に所属するために、自分を我慢させることを次第に覚えていくのです。その遊びが崩壊したことが、もう一つの要因となっているのです。

ではどうしたら良いのでしょうか。まずは耐性ということの重要性に、目を向けましょう。この記事の中で覚えただけでも、一つの進歩かもしれません。またこどもの心の核は親の元で作られていることを、もう一度認識して欲しいのです。こどもが少なければ、ある程度過保護になることはやむを得ません。しかし単なる過保護と、放任と過干渉が混在する過保護の違いに気付いて下さい。これからはこどもに任せてみて下さい、勝手な先取りはしないでください、必要以上のものをあげないようにしてください。多少の失敗や挫折は誰にでもあるものです。そんなこどもの状態を気にしないでだけでなく、親自身が余裕を持つことが大切です。そしてこども達が目を輝かし、楽しく遊べる環境作りを、みんなで考えてあげましょう。



9月のお知らせ

1才6ヶ月健診による休診

9月22日(火)は1才6ヶ月健診のため

14:00~16:30まで

休診となります。

健診予防接種はありません。



学会での休診のご協力、ありがとうございました

福岡の日本小児科外来研究会で、『HOMEPAGEと医療相談』という題で発表してきました。医療相談の内容などを報告しました。学会で発表できるのも、皆様のご理解のおかげと思っています。

栄養育児相談(栄養士担当)

毎週水曜日 午後1時30分~ 参加無料

読者の広場

今年はずっと夏らしくない、夏でした。お陰様で少し、ゆっくり休養させてもらいました。また学会の出張の折には御迷惑をおかけしましたが、無事発表してきました。福岡はさすが、暑かったです。今回も投書をいただいたので紹介します。少し出だしが謎めいています。

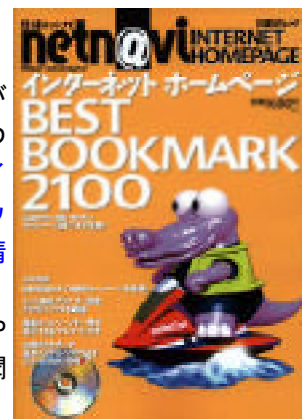
「いつも2人の息子がお世話になっております。実は私、息子達がお世話になる前に、1度先生にお会いしたことがあるんです。いつか先生にお話しようと思っていたのですが、わざわざ病院で言うようなことでもないし、お忙しいのにつまらない話で時間を、つぶすのも申し訳ないしと、今までお話できずにいましたが、今日は思いきってペンを取ることにしました。何だか誤解を招きそうな書き出しですが、私は以前某銀行でパートをしていたことがあり、たまたまそこに口座をお持ちだった先生に印鑑のことで、お電話を差し上げたことがあったのです。当時先生は開院されたばかりでお忙しかったと思うのですが、当日中に来店下さり、話し方も優しく、とても感じが良かったのを覚えています。なんだそれくらいと思われるかもしれませんが、私は結婚前にも銀行で窓口業務をしており、その時の経験で、病院や学校の“先生”と呼ばれている職業の方は、それぞれの職場では“いい先生”なのかもしれませんが、私生活では割と横柄で、順番が待てなかったり、無理なことを言ったりする人が多く、私は“先生”という職業の人が苦手だったんです。でも川村先生は、そういうところは全くありませんでした。当時子供のいなかった私は、子供が生まれると、この先生に診ていただこうと、固く心に誓ったのでした。そしてその夢(?)がかない、今お世話になっているのですが、いつも先生の顔を見ては泣き叫ぶ息子で申し訳なく思っています。でも家では、病院も先生も看護婦さんも大好きと言っておりますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。長々とつまらない手紙で、貴重なお時間を取らせてしまいすみませんでした。幸町K」

この文章からはもう5年も前のことだと思います。お子さんがいないときから、心に誓ったなんて、本当に医者冥利につきるお手紙でした。本当にありがとうございました。初心忘れるべからずです。これをいい話として心に留めておき、忘れないようにしたいと思います。それからこれを読んで“先生”方、気をつけて下さいね!!

話は変わりますが、最近外来でホームページ見ましたとか、患者さんから電子メールを頂くことが多くなりました。先日の新聞でもインターネットのアクセス者が、1000万人に達したと書かれています。でもまだまだ誰でもというわけにはいきません。以前から雑誌、テレビ、単行本で当院のホームページが紹介されています。このところ2冊の本で連続的に紹介されたので、紹介したいと思います。興味のある方は、読んでみて下さい。

“インターネット ホームページ ベストブックマーク 2100” (日経BP社・定価1600円)のライフ&ホビー/生活情報の“出産/育児”に掲載されました。便利なホームページが選ばれていて、かなり役に立つ本という印象です。お薦めホームページにはワニのマークがつけられ、全部で200サイト程度です。当院のホームページもその一つに選ばれています。“インターネットを使った医療相談者として知られる小児科医、かわむら先生のホームページ。ネット上にホームドクターを持つ感覚で、子供の健康相談に乗ってもらえる。小児科ミニ知識も情報量が豊富。” (そんなに、有名なのでしょうか?日本のBEST200ということですかね?)

インターネット雑誌“あちゃら”(リクルート・定価590円)のTHIS MONTH LINE-UPのtrendの“新米ママではわからない育児に関する疑問は、子育て系お役立ちホームページに聞いてみよう!”に掲載されました。

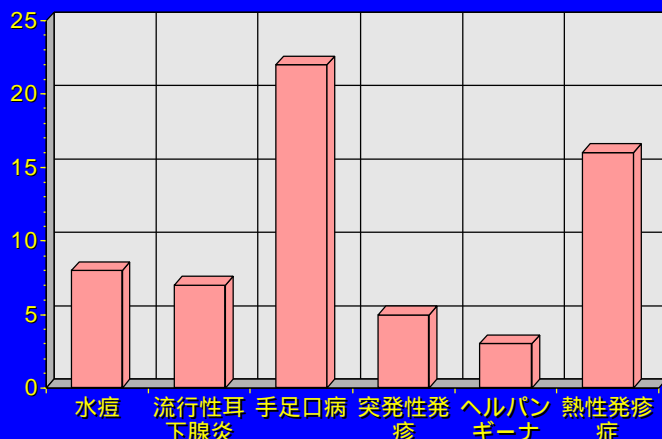


お母さんクラブ 第4回開催のお知らせ

9月17日(木)『みんなで遊ぼう』 福沢市民センター 14:00~

今回はレクレーションで、お母さん達も童心に帰って楽しい時間を過ごしましょう。参加費200円

8月の感染症の集計



8月になって感染症が全体に減ってきています。休みで感染症が広がらなくなるためでしょう。手足口病などの夏カゼも半分程度に減っています。今回の手足口病は、マスクミなどで問題になっていたような重症型ではありませんでした。ただ例年と比べると、熱の割合は高かったようです。何となく水痘やおたふくも減ってきている感じがします。

編集後記

今回は何となく自慢話を出しすぎた感じです。でも評価を受けることは、やっぱりうれしいものです。ボランティアとして行っていることに対する自己満足でしょうか。投書もありがとうございます。また頑張らなくちゃ!!

